
流星のロックマン『よぞらにうかぶあのりゅうせい。』

1 1 3 5 」

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

流星のロックマン『よぞらにうかぶあのりゅうせい。』

【Nコード】

N4418K

【作者名】

1135」

【あらすじ】

ロックマンによって地球は平和を取り戻した。それからのスバルたちは・・・？

スバルたちのやわらかコメディーと慎重なシリアス物語。

キャラクター紹介・説明（前書き）

今日からはじめます。 更新速度↓遅

キャラクター紹介・説明

キャラクター紹介（やじるしの先はその人間の電波変換後です。）

星川 スバル↓ロックマン

響 ミソラ↓ハープ・ノート

ソロ↓ブライ

双葉ツカサ↓ジェミニ・スパークW

双葉ヒカル（この小説では分裂しております。）↓ジェミニ・スパークB

ジャック↓ジャック・コーヴアス

キザマロ

ゴン太↓オックス・ファイア

オリキャラ

リオン↓口口

ゼオン↓ティナ

アロエ↓ナチュラル・レイチャー

宇宙樹^{そらまけ}コスモ↓コメット・ギャラクシー

水菜^{みなづき}月ニコロ↓パイシーズ・オーシャン

最初から戦いの中になっております。残酷な所もあります。病んだりもします（特にジェミニスパークB、ブライ、ジャック・コーヴラス。）色々と見にくい＋醜い＋病んだりする場面があります
が、できればどうぞ。

流星のロックマン ウイルスバステイング！（前書き）

いきなりウイルスバステイング。
ちよつと残酷シーンが・・・

流星のロックマン ウイルスバステイング！

スバルはウイルスの大群に囲まれていた。イキナリか。

「行くぞスバル！」

「う、うん」

バトルカード、ロングソード！」

「メ、メットーーーーー！！」

バステイングせいこ。

「よ、よし、バステイング成功」

「何がなんだか・・・」

ドオオオオオオン！！！！！！！！！！

「な、何！？」

「向こうからだな！ よし 行かせ！」

「・・・くっ・・・」

「ヒ、ヒカル 大丈夫？」

「お、おう・・・俺は大丈夫だ・・・」

シュン！

「！？」

「だ、誰！？」

シュウウウ・・・

「ぼ、僕だよ！ スバルだよ！」

「え、スバル君か・・・」

流星のロックマン ウイルスバスターゲ！（後書き）

バトルシーン下手だしネタ無いから短くおわり。

むすつとするな！（前書き）

そのなのとーり。

むすつとするな！

スゝスバル ツゝツカサ ウォゝウォーロック ルゝルナ

ミゝミソラ ソゝソロ

ス「てかなんでツカサ君が？」

ヒ「いいだる別に」

スバルはツカサがいる訳を聞くがヒカルに仕切られた。

ツ「ちょ・・・ヒカル・・・」

僕はヒカルを制御する為にウイルスと戦ってたんだー（棒読み）
でもさつきヒカルを助けようとしてたよね？

ツ「でもできなかった 力がまるつきり同じなの考えてなかった
ヒカルも僕も」

どごんごろごろどどどどどどど・・・

ごつーん！

ウォ「今の音からしてどこからどこまで落ちたんだ？」

そこで皆はウエーブアウトした。

ミ「あれっ？スバル君じゃーん！」

ル「なにしてたのよスバル君！もうとつくに下校の時間すぎてるわ
よ！」

ス&ツ「ちよつとねえー（汗）」

ミ&ル「むすーっ」

ヒ「おおほっぺが膨らんだ」

ル「教えないとどうなるかしらねー」

怖い

ミ「ちよつと心配しちゃった！でも良かったー 無事で」

ル「ったく本当になにやってたのよ・・・」

あほらし ここまで心配するとは

ミ「むすーっ」

え またですか むすつとしないで下さい

ミ「あほらし言うな」

ス「誰と話してたの？」

ミ「例の人」

その笑顔が怖い

ミ「むすーっ」

むすーっ言うな

ツ「じゃあそろそろいくねー」

ス「あ、うん」

ス&ミ「またねー」

ル「明日 遅刻しないで来なさいよー！」

ツ「うん じゃあねー」

ミ「さ、私たちも帰ろっか」

ス「うん」

キキイーーーーーッ!!!!!!!!!!

ス&ミ&ル「!？」

ウオ「ヤバい予感がするぜ・・・」

ス「行ってみよう！」

||||||||||||||||||||||||||||||||

ス「ソ、ソロお!?(汗)」

ソ「あたたた・・・」

ソロは車の下敷きになってぐったりしてた

ウオ「おーいラプラス・・・ ソロはどうして車の下敷きになっ

てるんだ？」

ラ「知らない。公園のベンチで寝てたらベンチがひっくり返って道

路でスリープしてひかれた的な」

ス&ミ&ル「・・・・・・・・・・」

むすつとするな！（後書き）

ソロは僕の小説ではかなりアホキャラです

転校生（前書き）

転校生

転校生は転校生だ！悪いk（

？？？「ついに私たち登場ね！」

あつちよつとまだ出てこないで

？？？「・・・はいはい」

転校生

ソロは、病院に運ばれた。しかし、意外にすぐ治ったらしい。病院から退院して2週間で、公園のベンチで寝ているソロを見かけた。せ「先生 ス「スバル ウォ「ウォーロック ル「ルナ ミ「ミソラ ハ「ハーブ ソ「ソロ リ「リオン ゼ「ゼオン

学校にて

せ「えー 今日は、転校生を紹介するぞー。」

・・・ザワザワ・・・

ミ「どんな子だろうね、スバル君」

ス「う、うん」

せ「では、入って来なさい。」

ス「・・・？（誰 ロック知ってる？）」

ウォ「（まさかコイツだとは・・・）」

せ「さあ、皆に自己紹介を。」

1人目は、スバルも一度みたことがある、ムーの民族の服を着ていた。スカートの右には、ムーの紋章がついている。瞳は、海水のような藍色だ。

ハ「水無月 ハミアです！」

2人目は、ニット帽に羽がささっており、首のネクタイには、やはりムーの紋章がついていた。瞳は、血のような紅色だ。

シ「水無月 シロウです。」

ザワザワ・・・

せ「じゃあ、その席に座って。」

ガタガタ・・・

シ「おっよかったなー ちょうど隣の席で。な、」

ハ「いいねーいいねー！テンション上がるー！！！」

ス「うーん・・・」
ウオ「（見るからに怪しいやつ2人組　ってか？）」
ス「えっえっと・・・そういう訳じゃなくて・・・」
ウオ「（じゃ何だ）」
ス「・・・」

休み時間

ハ「・・・ぶつぶつ」

シ「・・・ぶつぶつ」

ル「何か言ってる・・・」

ス「あれは何語・・・！？」

ミ「歌手の私でも分かんないよ・・・」

ハ「あ、スバル？」

ス「え」

ミ「なんでスバル君の名前知ってるの？」

ハ「カン」

ル「ええ・・・」

きーんこーんかーんこーん

ス「あ、チャイムが鳴った。」

ハ「じゃあいこー、しろ。」

シ「しろ言うな！犬じゃねえんだぞ！（汗）」

スタタタタタ・・・

ウオ「（俺の気違いか・・・）」

????「ハロー♪ウオーロック♪」

????「よう、ハープ！」

ウオ「・・・って やっぱりナイトか・・・」
ハ「あれ？ やっぱりラヴオじゃないの。」

転校生（後書き）

ナイトはハミアの電波体
ラヴォはシロウの電波体

もう一人の転校生（前書き）

そのままです

（本当は前の話に入れ忘れたキャラを書いただけw）

もう一人の転校生

学校にて

せ「えーきょうはーーまた転校生か・・・」

言ってる途中に先生のテンションが下がった（笑）

せ「じゃあ、入って来なさい」

ガラツツ

「ア、アロエです♪ どうもよろしく♪」

入って来たのは、後ろに小さな一つまげをして、チェック柄のワンピースに金色のベルトをした、九歳ほどの女の子だ。

見るからにしてかなりぶりっこそうだ

せ「アロエは、九歳にして天才とよばれ、この学年に飛び級してき
たんだ。」

ザ
ワ
ザ
ワ
・
・
・

「せー、アロエ、どこの席がいい？」

ア
「
ん
ー
と
・
・
・
」

じーっ

男子はミソラの次くらいにアロエが可愛いので、

(ミソラちゃんがこなかったかわりにアロエちゃんがこい！)

なんて事もあっていました。ツカサ&ヒカルとジャック以外

ツカヒカの思考

ツ、（ヒカル ぜったいあの子あやしい）

「（腹減った・・・）」

ジャックの思考

「（あやしい！！！見るからにあやしい！！！）」

ア「じゃあー、スバル君とミソラさんのあいだがいいです！」

ミ「どええええええええええ」

スバルくんと離れちゃう・・・」

皆の視線がスバルにいった

ミソラが怖い

ルナ怖い

ス「ミソラちゃん怖！！」

委員長 怖！！）

ガタガタガタガタ・
・
・

ということでした。

[illegible]

せ「じゃあ、今日の授業はこれで終わりだ。

みんな、寄り道せずに帰れよ！」

「はい」

もう一人の転校生（後書き）

短つつっ！！！（汗）

アロエはミソラ・ルナの恋のライバルですw

ちょっと取らないで！（前書き）

そのまま

ちょっと取らないで！

ア「スーバル君」

アロエがスバルの手を握る。

ゴゴゴゴゴツゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

ルナとミソラの殺気がオーラとなって見えるほどだ

そのオーラはたぶんドリームオーラより耐久力がありそうだ

ス「ア、アロエちゃん・・・（汗）」

ツ「モテモテだね スバル君」

ツカサの笑顔（目が笑っていない）さくれつ

ヒ「あほらしいわー」

ハ「いいんじゃない？よかったわねーいいパートナー（的な人）見つけられて」

シ「ん。・・・あ、お迎えきたぞー ハミア。」

キザマロ「・・・ソ、ソロ君？」

（注・キザマロたちはすべての事件が終わってからスバルにソロの事をはなしてもらいました。）

ゴン太「おい！ソロ！なんでおめーがそこにいるんだ？」

ソ「・・・うるさい、ハミアに頼まれてここにいただけだ」

「」

ア「ソロはねー今ハミアの家に住んでるの てか隠居してるの というか居候してるの」

ス「へ、へえ・・・」

ジャック「お前ら・・・どうした・・・」

ア「のああああ誰ですの！？（汗）」

ゴ「ジャック・・・」

ス「じ、じゃあ帰るね！（またいやな事件に巻き込まれそうだなあ・・・）」

ミ「あ、バイバイ。」

「スー————とは言つたものの……」
 ウオ「暇だ……」
 ス「何故……」
 ピンポン！
 ス「？ 誰だろ……」

ちょっと取らないで！（後書き）

ソロ・・・

大丈夫か・・・

パレルワールド（前書き）

あやあ

パラレルワールド

スバルの家

ス「……暇だなあ……」

ピンポン！

ス
「
？」
」

ミ&その他（笑） 「「「「「「「おじゃましーす！」「」「」「」

ス
「
・
・
・
え
？」

ええええええええ！？」

[illegible]

ル「ということなのよ」

ス
「
い
」
ん。
「

「まあ単に暇だから来ただけのな　一応ソロも行きたいっせ」
「行きたいなんて言っていないぞ!!」さ

ハムププ（、）／＼

ゴ「（なんで顔文字使った・・・）」

くすねねねねね

キ「……ゴン太君、おなかなってますよ」

ガシヤン!!!

ス
「
!
?
」

スバルが振り返ると、窓のガラスが割れており、後ろには……ソッ（カミカクシを使ったときのあな……なぜここに？）」

ソロがそう思った瞬間、そのあなはみんなを飲み込んだ。

ス&ツ「うわあああああ！？」

ミ&ル「きゃあああああ!？」

「ヒ&ジ」のああああああ！？」

ハ「キャツ！」

「うおーッ！」

「ア、
「やー
ですわ！」

ソ「くっ！」

そして、あなはキザマロ・ゴン太を残して消え去った。

ス「ーーーーーうわっ！」

ドスッ！

ミ「イタタタタ……」

ツ「こ、ここは……？」

みんながあなから出て来たのは、そう。

ーーーーーコダマタウンだ。

しかし、色が無い。薄く色の強弱があるだけで、あとは黒と白の世界だ。

ヒ「なんだ一体……戻って来たのか？」

ス「あれ……パレルワード……」

ア「じゃあここは、裏コダマタウンね！」

とアロエが言った瞬間、木の影が伸びて来た。

ツ「うわ！」

木の陰は、ツカサへ向かってまっすぐに伸び始めた。

しかし、襲おうとしているのはツカサではない。ーーーーー

ツカサの 影だ。

そして、木の影はツカサの影を刺し、引きはがそうとした。

ツ「ぐぐっ……」

アロエが耳元でささやく。

ア「影を失ったすべての物は意識が薄れて動きが鈍くなるわ
だって影は体の一部だもの

簡単に言えば裏の体ね ここ、裏の世界みたいに。」

ス「影……か」

パラレルワールド（後書き）

きやー

影との戦い

「……」

八「ちよつとヤバいんじゃない？助けてあげなさいよ！」ロッキマ

ス
「
!
?
」

その途端、

バリツ!!!

「シやべ！影はがれたぞ！」

というシロウのうしろには、もう一人のツカサ————

姿は同じだが、灰をかぶったように黒くぼやけた体になっている。

ウォ「気をつけるスバル！あいつはツカサの影だ！」

「ハーミソラ、行ける？」

「うん！大丈夫よ！」

八「まって。ミソラちゃん？ちよつとギター貸してくれない？」

「え、いいけど……」

リオンはミソラにギターを借りると、いきなり声にならない叫びをあげた。

八「……………」

!!!!

するとツカサの影は、頭を抱えてうなりだした。

「この槍について地面にもどせば……ハッ！」

そう言うとき、シロウは、ツカサの影の心臓を貫き、そして地面にたた

き落とした。

ツ影「————ッ!」

すると、ツカサの影はツカサの足下に張り付き、もとの影にもどった。

ス「びっっくりしたああ・・・」

ミ「じゃあ、帰りましょ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4418k/>

流星のロックマン『よぞらにうかぶあのりゅうせい。』

2010年10月15日01時34分発行